

ながさき未来塾





塾長 野口 美砂子

■ 塾長コメント ■

私たちは長崎の未来がどのようなになるのか想像はできたとしても、実は誰も知らないのです。ただ、現在（いま）を生きている私たちが、どのような意識で行動していくかで未来の姿を創り出していくことは事実です。

この社会が持続していくかどうかは、これからの私たちの生き方、考え方、暮らし方の選択で違って来るのかもしれませんが、できれば持続可能な社会であってほしいと願う中で、その鍵を持っているのは「次の世代を担う」いや、「未来の創り手」となる子どもたちではないのでしょうか。

子どもたちのつぶやき、子どもたちの未来構想に耳を傾けると、とても明るい長崎の未来が想像できます。そして子どもたちのアイデアを実現に向けた取り組みとして開催したのが「ながさき未来塾」です。

今年度は、行動を起こす前に知らないことを知るといった視点を変えて、俯瞰的な目で長崎を見ることを中心に活動しています。

■ 塾の目的 ■

これまで、中学生、高校生、大学生と関わる中で、想像以上に長崎のまちの未来を考えていることを知りました。

これからの社会を創り上げていく子どもたちの、社会につながるきっかけをつくりたいと考えています。

長崎市の課題について、若者たちには「どうすれば解決できるか」といった意見もあり、その声を多くの市民に届けるため、その声を実現させるため、若者と大人と一緒に活動していく機会をつくる必要があると感じています。

自分たちの未来は自分たちで創造することを前提に、若者たち、あるいは大人の塾生の「社会参画」を促すことを目的としています。



■ 塾の研究・活動内容 ■

「長崎の現在（いま）を知り、長崎の未来について考えて行動すること」を主なテーマとしています。

「ながさき未来塾」の塾生は約 50 名です。その塾生の約 75% が高校生など（小学生や大学生もいます）の若者たちであり、この塾の中心は若者たちであるということもできます。

この、長崎の未来を担う若者たちが、「ながさき未来塾」の活動を通して、「よりよい社会・未来づくりに参加しよう」という意識を向上させたり、そのために必要な力を身に付けたりすることができるようにすることが、残り 25% の大人の塾生の願いでもあります。

若者の意識を向上させるために、この塾では、大人の塾生がサポートしながら、若者たちに、自分たちのアイデアが（その一部でも）実現する経験をさせようと考えています。

詳しくは後で述べますが、1年目の「ながさき未来塾」の活動の流れをおおまかに示すと、

- ①若者と大人と一緒に、長崎の現状、良いところや課題について話し合う。
 - ②まちづくりや起業することについて、講師を招聘して講話を聞き、ディスカッションをした。
 - ③アメリカの教育に関する映画を鑑賞し、教育について語り合う会を実施した。教育についての考えを深めた。
 - ④大人がサポートしながら、若者たちが3つのグループに分かれ、佐世保地区、住吉地区、浜の町地区の各商店街の視察とインタビューを行った。
 - ⑤ ④をもとに、若者たちが商店街の活性化のアイデアを考え、大人もサポートしながら、その実現に向けて活動している。
 - ⑥ 大人を中心に、③を踏まえながら、よりよい子育てや教育の在り方について、広く市民の方に紹介する内容をまとめる。
- 以上ようになります。

以上の活動の中で、私たち塾生が学んだこと、気づいたこと、考えたこと、新しいアイデアなどについて、今後、多くの市民の方にお伝えし、一緒に活動する仲間を増やしていきたいと考えています。

■ 塾活動の成果（概要） ■

塾活動1年目の今年度の成果として、大きく3つあげることができます。

一つは、人と人との「つながり」が増えたことです。塾生の若者と大人とのつながり、若

者どうし、大人どうしのつながり、塾に招いた講師と塾生とのつながり、など、長崎の未来を考え、行動するという共通の意識をもつ人どうしのたくさんのつながりが生まれました。初めは小さなつながりも、活動を続けることで、大きなつながりになり、社会をより良く変えていく流れが生まれてくることを期待しています。

二つめは、「若者」が、塾の活動を通して、貴重な経験を重ねることができているところです。若者たちは、NHKディレクターや、起業家の話を直に聞き、話し合い、そのアイデアや生き方に共感し、まちづくりや起業することについての理解を深め、よりよき社会の形成に参画する意欲を向上させていました。ながさき未来塾だからこそできる経験だと思います。また、「若者」たちからも「長崎の課題、魅力の両面に気づくことができた」という感想も聞かれました。

三つ目は、若者のアイデアを、大人がサポートしながら実現させようとしているところです。まだ1年目で実現途中ですが、活動を続けることで、若者のアイデアが実現に着実に近づいていくはずで、若者の主体的な活動を、大人がサポートすることで、若者の大人への信頼感が高まり、それが若者の社会への信頼感や、長崎を愛する気持ちにつながっていくと考えています。



ながさき未来塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
令和元年		
5月21日(火)	長崎歴史文化博物館	長崎伝習所「塾」開所式、第1回 塾会議
6月8日(土)	シビックホール	ワークショップ(長崎市の人口流出について)
6月29日(土)	シビックホール	ワークショップ(これから未来塾で取り組みたいこと)
7月27日(土)	シビックホール	窪田栄一氏の講演・演習「ヒトの未来について」
8月3日(土)	シビックホール	窪田氏の講演を受け、これからどうするか。
8月17日(土)	シビックホール	鶴洋高校のアンケート結果について
9月28日(日)	シビックホール	大人組「教師と親のサポート体制の構築について」
10月12日(土)	シビックホール	商店街空き地での起業体験、教育に関する映画鑑賞と語る会の開催について
10月26日(土)	シビックホール	浜の町、新大工、住吉、佐世保現地調査について
11月16日(土)	シビックホール	現地調査・映画鑑賞・語る会に向けての準備
12月8日(日)	シビックホール	映画「Most likely to succeed」上映会・語る会
12月22日(日)	シビックホール	現地調査報告、2月のフォーラムの準備
令和2年		
1月11日(土)	シビックホール	商店街現地調査発表会 (中通り商店街、住吉商店街、早岐町のマルシェ) 五島市の現状について
2月8日(土)	シビックホール	今後の活動について(塾長、副塾長、事務局のみ)
2月15日(土)	シビックホール	露木志奈氏講演 「“思い”を実現するチカラ」・語る会
2月22日(土)	シビックホール	伝習所まつりに向けた準備について
2月29日(土)	シビックホール	今年度の活動のまとめ(大人のみ)
3月7日(土)	シビックホール	今年度の活動のまとめ(大人のみ)
3月14日(土)	シビックホール	今年度の成果物と報告書の作成(大人のみ)
3月21日(土)	シビックホール	今年度の成果物と報告書の作成(大人のみ)
3月28日(土)	シビックホール	今年度の成果物と報告書の作成(大人のみ)

I 講演「ヒトの未来について考える」

ワークショップ「未来予想」

1. 日 時 令和元年7月27日(土)

2. 会 場 長崎シビックホール

3. 講演者 窪田栄一氏

・NHK制作局チーフディレクター、「地域づくりアーカイブス」の企画・制作や、数多くの教育番組の企画・制作に携わっている。

4. 参加者 約25名

中学生・高校生・一般の様々な分野の人々が集った。



5. 講演内容(概要)

○演題「ヒトの未来について考える」

- ・直立猿人、ヒトの家畜化(自然界の中の人間界、人工物の中の人間)
- ・社会(世界)を見るときの見方・考え方(視点)
- ・社会相関図を描いてみる→トリの目(構造)と虫の目(実存・感情):社会(世界)を見るとき視点

○ワークショップ

- ・未来予想(近い・遠い 私、長崎、日本、世界)

6. 講演とワークショップからの学び

(ヒトの家畜化)

- ・便利さを求めて科学技術を発展させ、人工物の中で生活している人間(ヒト)と、

人間が家畜化している動物たちとの共通点が見られた。家畜化された動物たちの弱体化とストレスを抱えた姿は、現代社会において、人工物の中で生活するヒトと重なる部分が多かった。窪田氏の説明はとても説得力があった。

- ・あくまでも、自然界の中の人間界であるという、自然とのつながりを大切にするという視点も、未来の長崎のまちづくりを考える上で重要であると気づかされた。
- ・ヒトの家畜化という概念を知ることによって、現在、多くのヒトが都会的なものに価値があるという意識をもっているが、そうした価値に対して別の価値、新しい価値があるのではないかという考えをもつことができた。塾生の感想では、これまで学ぶことがなかったことを新たに学ぶことができたという言葉が多かった。

(トリの目、虫の目)

- ・講演において、社会相関図を示しながら、社会(世界)を見るとき視点として、トリの目(社会構造)と虫の目(周囲の人々の姿や感情)という説明があった。
- ・その後のワークショップでは、その視点をもとに、現在を起点として、各グループで、私自身・長崎・日本・世界の未来予想をポジティブな面と、ネガティブな面の両面で出し合った。
- ・ながさき未来塾のこれからの活動にながさきを考えるときにもっておきたい視点を確認することができた。



II 上映会「Most Likely to Succeed」 及びディスカッション

1. 日 時 令和元年 12 月 8 日 (日)
2. 会 場 長崎シビックホール
3. 参加者 約 50 人



4. 上映内容（概要）

近代以降、工業化が進展してきた社会では、軍隊や工場で働くために、知識詰め込みのマニュアル人間を育ててきた。それは、社会の要請でもあった。

しかし、AI との共存を図る社会では、創造力や決断力、コミュニケーション力といった、より人間的な力が求められる。そういった力を育成しようと、アメリカの公立学校「High Tech High」は、チャータースクールの枠組みで革新的な教育に取り組む。

生徒たちは、自ら課題を見つけて、プロジェクトを立ち上げ、仲間とともに発表会に向けて探究していく。

必然的に、教科は統合され、能動的で協働的な深い学びになっていき、教師は、指導者としてよりも支援者として生徒たちと向き合っていく。…といったドキュメンタリー映画。

5. グループディスカッション

思いを共有するために、次の2つのテーマについて、4グループに分かれての意見交換。

○テーマ1「子どもにとって、学校や家庭の役割とは？」

○テーマ2「子どもにとっての『成功』とは何か？」

6. 活動の様子、および感想

各グループ、おのこの経験や立場に基づく様々な意見が出された。予定されていた時間では足りないほどに活発な意見交換がなされた。

上記「テーマ1」については、高校生は高校生の、親は親の、教育者は教育者の、それぞれの立場で、千差万別、様々な回答が見られた。

上記「テーマ2」については、「目標に到達できて達成感を得られたとき」、「他者に認められたとき」といった意見が多く出された。すべてが正解ではあるものの、ある男子高校生から「自分が何をやりたいかを発見したとき」といった核心をつく回答が返ってきて、ドキッとさせられた。自己実現を目指す際に、多くの高校生が抱く悩みは、自分が何をしたいかがわからないということである。

それは、自らが主体的に行動を起こさないかぎり、発見できないものであるが、その機会が得られないと、逡巡し、何ら将来へのビジョンを持ってないままでいる。一方、自分自身が何をすべきかを明確に見つけられた場合は、次のステップとして、自分が何ができるかを考えることができる。

自分が何をやりたいかを発見する手伝いを行うのが、大人の役割なのかもしれない。

Ⅲ 講演会「“思い”を実現するチカラ」 次世代環境リーダー露木志奈さんを迎えて

1. 日 時 令和2年2月15日(土)

2. 会 場 長崎シビックホール

3. 講演者 露木志奈(19歳)
慶応大学環境情報学部在学。
環境問題について様々なプロジェクトを企画する「しいなプロジェクト」の代表。インドネシア・バリにある世界中から生徒が集まる最先端教育機関「グリーンスクール」に単身留学して、日本人女性として初めて卒業。

4. 参加者 約30名
中学生・高校生・一般の様々な分野の人々が集った。



5. 講演内容(概要)

「グリーンスクール」は、各国の首脳が地球温暖化問題について話し合う COP(気候変動枠組条約締約国会議)に先立って、若い世代が議論する COY に学生枠として招待を受けるなど、世界的に認められている高等学校である。志奈さんは、高校で「グリーンスクール」への留学を決意して、単身バリへ渡る。そこで、「何かをはじめると大人になるまで待たなくてもいい」、「行動を起こせ

ば希望は見つかる」といった教育方針に背中を押される。そして、「自然化粧品を開発したい」と同時に、「環境問題も解決したい」という二つの志を抱いて、探求的な学びを深めた。自己のプロジェクトを認めてもらうためのプレゼンテーションを行った結果、オーガニックコスメ事業「DALIBALI」の立ち上げに成功し、事業を展開。 グリーンスクール卒業後は、日本で環境啓発活動をしたいと慶應大学環境情報学部に進学し、SDGs にフォーカスした講義や環境とビジネスについての学びを深めている。

志奈さんの講演の後に、引き続き、露木由美さん(志奈さんの母)が、「ココロザシの育て方」について講話。「私」よりも「公」のために、「ココロザシ」を抱いて生きる生き方の大切さを伝えた。

6. 質疑応答と情報交換会

講演後は、質疑応答と志奈さんと由美さんを囲んでの情報交換会を行い、活発な意見交換が行われた。ある高校生の、「日本の教育をどう思うか」といった質問に対して、志奈さんの、

「日本の教育を一切だめだとは思わないです。素晴らしい教育活動はたくさんあります。ただし、一つ言えるのは、『グリーンスクール』は、将来の選択肢を見せてくれるということです。また、大学に入学することがゴールとは考えていません。ギャップイヤーといって、休暇を取って、自分のやりたいことを自分のペースで決めることもできます。」といった回答が印象に残る。

■ 活動の成果と提言 ■

1 若者（ティーンエイジ組）の学び

スライド①

商店街で働く人にインタビュー！！

**TAO
KALEID
SCOPE**



中通り商店街

スライド②

まとめ

- ・インスタ映えを狙ったスポット
- ・食べ歩き
- ・勉強できるスペース
- ・WiFiの完備
- ・住吉地区の人
 - 街を活性化させようという意志 **強**
- ・店舗としての利益 + 社会貢献
 - 障がい者雇用・子ども食堂



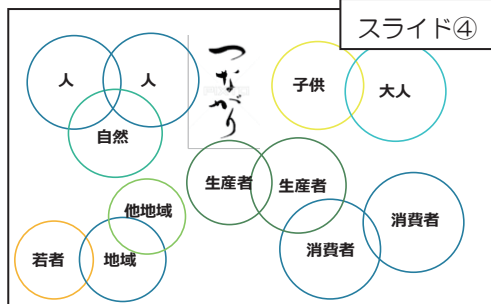
スライド③

まるシェ

高校生主体の繋がるマルシェ



- ・高校生の出店が主
- ・出展料は500円程度
- ・お金を稼ぐことは重要ではなく
人や地域とのつながりを増やすため
- ・定期的開催することでリピーターを狙う



上のスライドは、令和2年1月11日（土）にシビックホールで行った商店街フィールドワーク発表会で、発表に使われたスライドの一部です。10代の若い塾生（ティーンエイジ組と表現します）が3つのグループに分かれて、「中通り商店街」「住吉商店街」「早岐町のマルシェ」にフィールドワークに行きました。それぞれのグループの代表者が、フィールドワークの内容と感じたこと、気づいたことについて発表しました。

高校生を中心とするティーンエイジ組は、「長崎市の人口減少について」「長崎市の魅力、課題」「未来の長崎市について」「今後5年・10年で求められる能力や変化」「10年先には無くなると思うもの・サービス・仕事」などについて考えるワークショップを重ねながら「ながさき未来塾でやりたいこと」を考えました。ティーンエイジ組は「長崎市の商店街を（さらに）活性化するアイデアを考え、実現をめざす」ことを未来塾でやりたいことに決めました。フィールドワークした商店街・地域は

1. 「中通り商店街グループ」（スライド①）
2. 「住吉商店街グループ」（スライド②）
3. 「早岐町マルシェグループ」（スライド③）

上記の3箇所で、それぞれ商店街で働く人たちにインタビューを行い、それぞれの商店街の特徴や課題、地元商店街で働く人たちの思いを聞き取りました。

【共通課題】

- ・空き店舗、空きスペースの有効活用を図る。

【学んだ事】


- ・生産者と出店者、出店者同士の「つながり」を重視している。
- ・地域の特産物や出店者の技能などを最大限に生かしながら、生き生きしたマルシェを運営している。

【今後のアイデア】

- ・「長崎ブランドのロゴ」、「まるシェ」「チンチン電車まるシェ」などの起業につながるアイデア。

ティーンエイジ組の若い塾生たちは、人・もの・場所など、さまざまな「つながり」を見直し、その「つながり」に注目しながら、これからの長崎について考えることが大切で

あるということに気づきました(スライド④)。その「つながり」を拡げるために、SNSを活用するというアイデアも提案していました。

○アンケート活動による分析 (7月9・11日実施)	
高校生 355名	
一般 150名	
	スライド⑤

○ふるさとの抱える課題	スライド⑥
長崎市(長崎県)の人口を維持・増加させるためには…	
①在住者を流出させない魅力的な町づくり	
②県外からたくさんの人が移住する魅力的な町づくり	
どのようなことを長崎の魅力とするのか…	
①現在ないものを作ることで魅力をあげる	
②ないものを価値とし、新しい価値観を発信する	

また、スライド⑤・⑥のように、ティーンエイジ組の鶴洋高校の生徒たちは、高校生と、長崎の玄関口である長崎駅で、長崎市に観光で訪れた人や、長崎県に在住する一般の方に、長崎の魅力や課題についてのアンケート調査を行い、アンケート結果の考察と、長崎の課題の改善策についてまとめました。ながさき未来塾での学びを、学校教育にもつなげていきます。鶴洋高校の塾生たち、学びのまとめにも「つながり」というキーワードが含まれています。

これからティーンエイジ組は、この、人・もの・場所の「つながり」をキーワードに、商店街の活性化策を考え、起業をめざして活動をしていく予定です。

また、今年度、未来塾では2名の講師を招聘して、講師の話を聞き、講師とディスカッションする機会を設定しました。若者たちは、まちづくりや起業のための多くのヒントを得ていました。

このように、これからの長崎の未来を担う

若者たちに貴重な学びの場を提供することができたことも、今年度のながさき未来塾の大きな成果であると考えています。



2 「つながり」を最大限に生かして

1においてキーワードとして出てきた「つながり」について、今年度のながさき未来塾の活動の成果として、1年間ともに活動した10代の塾生と、30代以上の大人の塾生(大人組と表現します)とのつながりができたことも、塾の成果であると考えています。

大人組は、ティーンエイジ組のやりたいことやアイデアの実現をめざして支援することを活動の柱の一つに決めました。若者の主体的な活動を、大人がサポートすることで、若者の大人への信頼感が高まり、それが若者の社会への信頼感や、長崎を愛する気持ちにつながっていくと考えています。

大人組のメンバーには、出産、育児、医療、教育などの分野で働く人や、育児支援やまちづくりの活動を主催したり、活動に積極的に参加したりしている人たちがいます。メンバーの専門性や経験を生かしながら、未来の長崎について話し合いを重ねています。こうしたメンバー同士の「つながり」ができたこと、その大人同士の「つながり」が新たな「つながり」を生んでいることも塾の活動の成果であると考えています。

今後は、この「つながり」を最大限に生か

しながら、ティーンエイジ組のアイデアの実現を目指すこと、「つながり」をさらに広げて、長崎の未来について一緒に考え、活動する塾生を増やしていきたいです。

3 ながさき未来塾からの提言

1年目の活動が終了する現段階では、「提言」については、まだ、これからというところです。私たちがながさき未来塾は「つながり」というキーワードをもとに、次の2つのことを提案したいと考えています。

(1) 若者による起業・商店街の活性化案

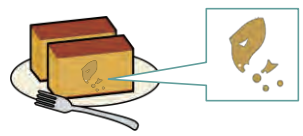
1でお伝えしたとおり、今年度、ティーンエイジ組を中心に「つながり」というキーワードをもとに、アイデアを出し始めたところです。来年度は、そのアイデアを実現可能なものに高め、大人組の「つながり」を最大限に生かしながら実現させ、来年度末には、その実践を元に、若者による起業・商店街の活性化案を提案できるようにしたいと考えています。

ティーンエイジ組の発表スライドから

長崎をつなげるために 案②

長崎ブランドのロゴ
 ・高級志向で作るわけではなく、ある一定の基準を作りそれに満たす商品にはそのロゴをつける

例えば...
 ・原材料の60%は長崎県産品
 ・添加物0
 そうすることで...
 ・安心安全の食材
 ・地産地消
 ・長崎の物を知ってもらえる

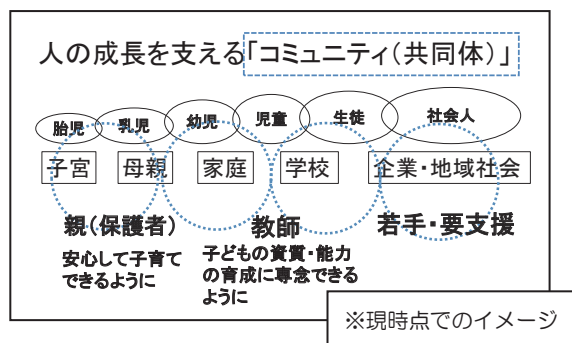


(2) 子どもたち、親、教師のサポート体制づくり

NHKの窪田ディレクターの講演とディスカッション、映画「Most likely to succeed」上映会と教育を語る会などには、市民の方にも参加していただきました。そ

のときに塾生と市民の方で話し合った内容を踏まえながら、大人組の塾生たちも、子育て支援や、キャリア教育支援についての改善策について、アイデアを出し合う話し合いを重ねているところです。前にも述べましたが、大人組には、出産（医療）、子育てや教育に関わるメンバーも多く、それに関わる長崎市の課題を明確にして、それを改善していきたいという熱い思いがあります。それが、ゆくゆくは、未来の長崎市をよりよくしていくことにつながると考えています。

あくまでも、現時点でのイメージではありますが、大人組では、「子育て・教育」に不安を抱える親や、子どもの教育に直接関わる教師を支援するコミュニティの在り方などを次の通りまとめ始めたところです。



来年度には、提言として公表できるように、講師を招聘するなどして様々な情報を集め、ディスカッションを重ねながらアイデアをまとめていくことにしています。



■ 塾生の感想・コメント ■

(ティーンエイジ組)

- 長崎の現状や、長崎を変えたいと思っている同学年の人が多くいることを学びました。そして、長崎には住吉のような知られてないけどいい場所が多くあるということを感じています。
- 長崎はとてもいい場所なので、SNSなどを上手く使用して発信していけたらいいと思います。
- 長崎の現状を同年代の人や大人と話し合い理解を深めることができいい経験になりました。
- 長崎を変えたい、活性化させたいと思っている若者や大人が多くいるということを感じました。もっと多くの人と意見を交わして視野を広げていきたいです！
- 高校生でもできることはたくさんあるということです！これからの長崎を少しでも変えられるように考えをまとめていきたいです！
- 長崎の今の現状をどのようにしたら変えられるかなどいろいろなことを話し合えてとてもいい経験になりました！これからも良いアイデアを出し合って今の長崎を変えていけたらいいなと思いました！！
- 高校生は高校生なりに長崎の未来を本気で考えています。私たち若者の視点が新しい考え方を生み出したり、何かの原動力になったりしているのだと感じました。
- 現状、長崎には魅力もたくさんありますが、それが若者にとって（人口流出という面において）魅力になるとは限らないということも感じています。また、立場の違う人との意見交換の中で物事を多角的に見る視点や「若いからできない」ということはないのだということも学ぶことができました。
- まずは考え方を改めていくことが必要だと思います。未来塾の中で講演会やシンポジウムに参加してきましたが、従来通りの考え方のままだったり若者の考えを上の人が否定したり一蹴してしまうようなところに若者は残りたいとは思いません。また、高校生が活躍できる場を増やしてほしいです。学業や部活だけが学生のすべてではないという部分をもっと大々的にアピールしてほしいと思いました。これからは経済を専門的に学びながら街中に出て住んでいる人の「本音」を聞いて自分に今何ができるのか考え、行動に移していきたいと思います。



○ 未来塾で学んだことは長崎が今どんな現状なのかっていうことと長崎の高校生がどれだけ本気で長崎を変えたいのかなどを知れていい経験になりました。

○ これからは町おこしのことや地元の人でも知らないことなどをどんどん発信していき活性化に貢献できたらと思います。

○ 強い意志を持った人たちばかりですごく刺激になったし、いろいろな考え方があるんだと1つの考えに囚われず多方面から見ることでより良い長崎の未来を築けそうだと思うことができました。そして自分が成長したと思うし、人生が豊かになった気がしました。考えることができたので次は実行することです。

○ 長崎の現状をフィールドワークなどを通して理解し、未来の明るい長崎を創るためにたくさんの人たちと交流できて楽しかったし、いい経験になりました。

○ 学生の発想力、行動力の可能性は無限大で、いろいろな考えを持った人が社会で頑張っているということを知りました。

○ オープンマインドな視点で色々な人と一緒に活動するなかで、自分らしく生きます！

○ 大人と子どもの意見では全く違うものがある面白かったです。大人に直接若い世代の気持ちを伝え、理解してもらおうことの大切さを知りました。

○ 長崎のことを知る講演などの機会を大事にし、参加していきたいです。そして、聞いた話を少しずつでも活かせるような活動をしていきたいです！！



(大人組)

○ 子どもも大人も一人の人

お互いに、伸ばして伸ばされる関係が大切。

- 「日本は子どもの天国だった」を取り戻したい。
- 地域で子供を育てる環境を作りたい。
- 無関心でいたら何も解決しないので、一緒に活動する仲間を増やしたい
- 子育て支援に助産師をもっと活用して欲しい
- 縦社会から横の社会へ
- こどもは国の宝
- 私が学生の頃と何も変わらない学校
- 子ども達の発想は素晴らしい
- 多様性を学べる環境にかえる
- ヒトから人間にする教育をしたい

○ 今年1年学んだこと、考えたことをまとめました。

【気付いたこと】

- 1：子どもの可能性を狭めているのは「大人の常識」では？！
- 2：子どもの問題には、必ず子どもの環境に問題がある。
- 3：情熱を持った仲間がいる。

【学んだこと】

- 1：（野口塾長から）ドイツのキャリア教育。（身近に将来の仕事が学べる環境、やり直しがきく。）詰込み学習して、「これが将来なんの役に立つの？」的な日本の教育との大違い。これこそ、教育ではないのか？！

【未来に向けての提言】

- 1：みらい塾へ：この活動は2, 3年続いて意味のあるものと考えます。2年目に入る今、年間のマスタープラン作成とPDCAを回しましょう。その活動からティーンエイジ組、大人組も成長し、影響力のある活動を目指しましょう。
- 2：ティーンエイジ組へ：興味があるものだけ見るのではなく、現実を直視する力を持ってください。選挙権を持ったメンバーもいると思います。積極的に社会に参画下さい。
- 3：活動全般へ 現実を否定するだけでなく、代案をもって望みましょう！未来を次の世代に残すために。鳥の目、虫の目、魚の目で。

○ 子ども達によい未来を！そのためには、何かを変えるのではなく、まず私たち大人自身が変わらなければなりません。

○ 塾の活動を通して考えた改善点等について

- ・自分が何をやりたいかを発見させる教育
- ・怖れずに trial & error をさせる教育
- ・自己承認力を高める教育
- ・段取り力を高める教育
- ・生徒主体の統合的探究的教育
- ・学校と地域と行政との協働学習プログラムができないか。例えば、長崎版「おとな先生」
- ・地域の魅力的な大人とつながる機会を作る（教員も子どもたちも）
- ・キャリア教育をすべての高校で行う
- ・文化的創造的活動の時間を確保する
- ・ふるさと教育プログラムを作る（小・中・高校段階的に）



○ 私が出会ったママたちは一生懸命に子どもを育てるといふことに向き合い頑張っています。昔と比べて努力が足りないと言うものではなくて、ママと赤ちゃんの丁度よい「抱っこ・授乳・睡眠・遊び」など赤ちゃんを育てる上で大事なことを上手くできないのは、昔とくらべて伝承が少ないからだと感じています。

ネットの情報や軽く指導を受けただけという状態でのスタートではどうしたらいいのかわからないという状況を目の当たりにしています。赤ちゃんが

本来持って生まれたものがあるのに発揮しにくい環境になっていています。不具合を克服した子どもたちの話から、「身体のバランスが崩れている」「守ってもらっている感覚がない」と言われています。赤ちゃんのうちに適切な介入をすることで、母子の愛着や信頼関係を深めることが赤ちゃんの不具合も改善することもできます。しかし家庭で親が努力してできる問題、社会・地球全体の問題という部分と両方があります。

子どもの発育に危機感を感じて熱心に勉強されている専門職の方がたくさんいらっしゃいます。その専門職の方々と連携して共有していくなかで、行き着くところは 赤ちゃんの時にどのように育ったかに行き着きます。「みんな違ってみんないい」ですが、その子に合った発達の促し方や育ちからの進め方などたくさんあります。

知識を得ることで日常生活に活かしていくことが大切で、ひとりひとりの資源を無駄にしないで、価値観を共有できる仲間作りをしていく必要があると思っています。

私は未来塾でこの長崎に親と子の笑顔に繋がるために安心して本音で話せるサポート・心をゆるせる居場所としてまた「大切な自分の資源を活かす」ような橋渡しのサポートを続けていきたいです。

- 長女が社会人となり数年が経ち、長男、次女もあと 1 年で学校を卒業する。これでそろそろ子育ても終了。

そんな時に未来塾に誘われました。

今まで私が出会った人の中には、わたしにはとても真似できないようなボランティア活動を熱心にされている方など素晴らしい方々がいらっしゃいます。

しかし皆さんそれぞれに素晴らしいのにその活動がうまく活かしきれてない…それってどうして？どうしたらいいんだろう？と思うこともありました。

改めて観察すると、縦のネットワークはあっても横や斜めのネットワークはありそうで、なかなか見えてきません。そうか、私個人に特別な力はなくとも、ひととひとを繋げることはもしかしたらできるかも。うーんどうだろう？そういう思いを抱えて未来塾に参加しました。

そして、「この映画、なんとか長崎で上映できませんか？」とまさにそのタイミングで若い友人からの相談。それが映画「Most Likely To Succeed」との出会いです。テーマは教育。未来塾にぴったりというわけで上映会の運びとなりました。幅広い年齢層の方々がご参加くださり上映会後の座談会でも活発な意見交換ができました。また、この上映会のご縁で島原出身東京在住、長崎の未来のために活動されている方とも繋がることができました。

この数ヶ月、色々な方と長崎の未来というキーワードで繋がって、更に自分がコネクターとしての役割も果たせることに気がついた次第です。

これから先はもっと自由に拡がりを作っていけたらいいな~と思っています。

未来塾で一緒にしませんか？

ながさき未来塾

塾長	野口 美砂子				
1	井家上 知花	21	下田 真太郎	41	福丸 敬太
2	池田 恭士朗	22	苑田 菜々子	42	寶子山 海
3	石橋 由衣	23	高木 京子	43	増田 和美
4	一ノ瀬 蓮優康	24	高濱 真理	44	水野 和美
5	井手口 萌	25	谷川 有芽	45	水野 環
6	浦上 一也	26	富川 絵理華	46	宮崎 翔
7	浦川 瑠那	27	中島 麗奈	47	宮村 真理
8	笠松 廉	28	中野 聖子	48	山崎 菜々子
9	亀井 尊	29	中村 和雅	49	山崎 美子
10	河北 桃香	30	野口 来晴	50	渡辺 一
11	川里 茉璃	31	野村 ひかり	51	
12	川原 駿	32	橋田 ひろみ	52	
13	神崎 楓子	33	馬場 海	53	
14	木村 菜々子	34	濱田 和史	54	
15	黒澤 美陽	35	林 春代	55	
16	古賀 凜華	36	林 里咲	56	
17	小橋川 直美	37	稗圃 健史	57	
18	小林 晴日	38	稗圃 史晃	58	
19	酒井 亜架利	39	廣瀬 勇	59	
20	坂田 絵美	40	深堀 由倫香	事務局員	学校教育課 荒木 俊明